

REHABILI

支承リバイバルシステム

(NETIS : CG-130026-A)

リハビリ工法

～既設鋼製支承を金属溶射することにより長期間防食～

～潤滑性防錆材の注入で支承機能の回復～

～特殊ノズルで、施工不可能であった狭隘部にもブラストが可能に～

～狭隘部を常温亜鉛めっきコーティングすることで耐久性向上～



従来届かなかった
範囲にも高い除錆度を
得られる。(支承周囲に
150mm以上の作業スペース
があれば施工可能)

狭隘部用特殊ノズル



一般社団法人 コンクリートメンテナンス協会

事務局 / 〒730-0053 広島市中区東千田町2-3-26 TEL082-541-0133

<http://www.j-cma.jp>

REHABILI

リハビリ工法

特殊ノズルが作業効率を格段にUP!

支承周囲に150mm以上の作業スペースがあれば施工可能



工期短縮

- ◆金属溶射により、長期耐久防食性能が向上、工程が少なくなり工期の短縮を実現!

支承機能回復

- ◆潤滑性防錆材の注入により支承のすべり機能を回復!

特殊ノズルで下地処理が広範囲に!

- ◆狭隘部は特殊ノズルでブラストを施工して、広範囲な下地処理が可能になり、常温亜鉛めっきコーティングを施工することで、溶融亜鉛めっき工法と同等の耐久防食性能を確保!

桁端部も同時施工

- ◆腐食環境になりやすい桁端部も同時施工が可能!

ふっ素樹脂塗装も!

- ◆塩害を受けやすい厳しい環境下では、ふっ素樹脂塗装が可能!

施工方法

1 前工程

現場調査・足場仮設・脊座面・既設支承の清掃を行う。

2 潤滑性防錆材の注

潤滑性防錆材(二硫化モリブデン)を、支承の滑り面に注入充填する。

3 ブラスト処理(素地調整)

ブラスト処理により素地調整及び粗面処理を行う。ブラスト施工前には研掃材の飛散防止のため、シートにて密閉養生を行う。

素地調整は既存塗膜及び油、汚れ等を取り除くことを目的とし、粗面処理は、溶射金属の付着を確保するため、金属面に凹凸を付けることを目的とする。

ブラスト面はSa.2.5~3.0に仕上げ、ISO基準と対比することによって検査することを標準とする。狭隘部には特殊ノズルを使用して、処理漏れが無いようにする。



4 金属溶射

ブラスト作業完了後、4時間以内に溶射作業を開始する。溶射被膜の形成は亜鉛・アルミニウム合金線を溶線式フレーム溶射にて標準とする。その他の金属線(亜鉛線、アルミニウム・マグネシウム合金線)および溶射法(アーク式溶射法)を適用する場合には、溶射被膜の防食環境や施工条件等を十分に検討すること。

5 コーティング

常温亜鉛めっき塗料を使用し、封孔処理および保護塗装を行う。

封孔処理とは、溶射被膜内の気孔に封孔材を浸透させて、気孔を密閉することにより被膜の安定を図るものである。また、封孔処理後に保護塗装を行うことにより、劣化因子から既設支承を物理的に遮断する。塩害を受ける厳しい環境下では、オプション仕様として、ふっ素樹脂塗料による中塗り・上塗りを行うことも可能。



ダイクレ興産株式会社 警固屋工場

広島県呉市警固屋9丁目9-6 TEL:0823-28-3545 FAX:0823-28-4374
<http://daikure-kousan.co.jp>